

第三種郵便物認可



自宅の屋上菜園では野菜や花を育てている

身近で活躍する技術士

地元の都市緑化増進を夢見て

若いときは各地の発電所や本四架橋、アクアラインなどの建設にかかわる環境調査・アセスメントに従事し、日本中の港湾や海岸をめぐるしてきました。この間に応用理学、建築、環境の技術士資格を取得しました。その経験を生かし、今は地元・東京都江東区の環境問題、環境学習にかかわっています。できることは食料自給率向上に貢献する屋上菜園と考え、自宅屋上で100個のプランターで野菜や花を育てています。肥料は生ごみリサイクル、雨水も活用しています。



江東区の緑被率は現在16%で、都の平均68%にははるかに及びません。このギャップを縮めるため、温暖化対策である「みどりのカーテン」や「屋上菜園」に取り組んでいます。「みどりのカーテン」は学校や高齢者施設に設置。皆さんから緑と涼しさだけでなく、花や果実も楽しめるといって大変喜ばれています。保育園児からの絵手紙「ごーや にかかったけど おいしかったです」「あさがおで いろみずが、たのしかったです」には私たちの涙腺が緩みました。

江東区では70%の人が集合住宅に住んでいます。屋上に作った自分のプランター菜園に毎日出かけ、無農薬のおいしい野菜を収穫。また仲間と自慢話や失敗談をしながら人間関係を再生させ、安全・安心なマンションづくりが展望できると夢見ています。

サステックインターナショナル

中瀬勝義顧問(応用理学部門)



子供のユニークな考え尊重

技術士として金属加工関連の技術コンサルタントをしています。2年前、理科実験の特別講師の募集が千葉県技術士会を通して千葉県教育庁からあり、応募し登録しました。私が小学6



年生（敗戦直後）のときに行ったベルの実験に取り組もうと考え、早速、試作にかかることにしました。担当することになった学校の先生から2人に1台といわれ、暮れと正月三が日を返上して夜遅くまで製作しました。今は1人に1台の大量生産も可能です。

ベルは完成後いったん分解したものを生徒が組み立てます。ボルトにエナメル線を巻きつけるところから始めるのですが、私の作ったベルは簡単には鳴りません。組み立て時に微妙な調整を必要とするためです。あるとき生徒がドライバーで回路を短絡し、ジージーと鳴らしています。そして「ここの接触が悪い」と指摘します。工具の配線化とは予想もつかない使用方法ですが、私はこのようなユニークな考え方を尊重します。

子供の想像力を生かし、伸ばす教育ができれば子供たちの「理科離れ」にも歯止めをかけることができ、科学技術創造立国の実現に少しでも貢献できるのではと考えて頑張っています。私もいつの日か、母校から「ようこそ先輩」と招かれ、50年後でも思いだしていただけるような記憶に残る実験をしたいと夢見ています。

身近で活躍する技術士

千葉県技術士会理科支援センター 幹事 森信武氏



広瀬川1万人プロジェクトの様子

「奉仕」から自然の大切さ学ぶ

広瀬川といえば『青葉城恋唄』。6年前に横浜から転勤で仙台に来るまでの印象は歌だけでしたが、間もなく広瀬川の本当の姿がわかりました。それは自然に満ちた「かわ」でした。水は清く澄んでいて飲めそうです。せせらぎの音は時に荒々しく優しい音色。護岸は垂直に立ち上がった地層のケーキのようで勇ましい。アユが生息し釣りもでき、冬季には白鳥も飛来するなど自然豊かな「かわ」が「まち」の真ん中を流れていることに驚きました。

私は技術士として、下水道にかかわる仕事をしています。雨の日に落ち葉、ペットボトル、紙類などが「かわ」へ出ないような装置を設計・設置することで間接的な清掃活動に寄与してきました。直接的に動いたのは「広瀬川1万人プロジェクト清掃活動」を知ってからです。仕事の効果を確認できるチャンスであり、市民と企業と行政の連携で「仙台のシンボル広瀬川をきれいにしよう！」という全国初のボランティア活動に興味をわいたからです。コンビニ弁当箱、カップラーメン丼、おにぎり包装が多く見受けられました。大雨が降ると、どこからともなくごみが舞い込むものだと感じました。「かわ」に流れ込む雨水の放流元は数多くあります。私は地元ならではのボランティアを通し、多くの方に清流・広瀬川に関心を寄せてもらい自然の大切さを共感できたらと願っています。



身近で活躍する技術士

日本工営仙台支店 本多学氏



復元した蓄音機

価値ある機器 次世代に伝える

大量生産・大量消費の時代から資源の節約、省エネルギーの時代が変わった今、昭和年代に作られた電子機器、機械装置が廃棄されてきています。これらの機器のほとんどは故障しても、サービス部品がなく、メーカー修理もすでに打ち切られているからです。



私も「親の形見なのでぜひ直したい」「30年前に愛用していたので、もう一度使いたい」といった声を多く聞くので、蓄音機、真空管ラジオ、テープレコーダーなど「アンティーク機器の再生復元サービス」を始めました。技術士の専門性を生かし修理、性能復元に取り組んでいます。例えば、米国からノックダウンで輸入された蓄音機「ビクトロラ」は発売から80年程度経過していますが、今でも当時の音質と遜色なく復元できます。復元過程で、当時の技術者が考えに考え抜き知恵を絞って工夫した跡が見えてきて楽しい発見もあります。復元修理の依頼は北海道から沖縄までできおり、この4年余で数百台を復元しました。

電子機器の場合は、主要部品が真空管、トランジスタ、IC、LSI、システムLSIと変化してきましたが、部品の共有化が図れているのは真空管、トランジスタまで。IC以降は修理も不可能になり、まさに使い捨ての商品となっています。技術者が「精魂こめて創った技術製品、をこれからも復元再生し、次の50年、100年と使っていただくお手伝いをしていきたいと思っています。

身近で活躍する技術士

オールジャパコン社長 町田光三氏（応用理学 電気・電子）



「創業塾OB会」でビジネスプランを議論するメンバー

身近で活躍する技術士

旺盛な意欲、広がる交流

金属部門の技術士を5年前に取得し、静岡県三島市で表面処理を専門に活動しています。事務所を立ち上げるため、三島商工会議所主催の創業塾という5日間のセミナーに参加しました。



当時は景気も良く、40人近くが参加し盛況でした。参加者の一部がセミナー終了後も会おうということになり、「創業塾OB会」を発足。毎月第3土曜日の夜に集まり始めました。会合は、ビジネスプランの説明と討論、創業に向けての近況報告などが中心。継続できているということは、何かの役割、期待感がこの会にはあるのでしょう。15人程度だった会員も今では50人を超えようとしています。創業した人も増え、地域も富士市から伊豆の松崎町と広がっています。

最近では、会合後の飲み会だけでなく、アイデア検討会と称する1泊2日の合宿も行っています。会員からは「もっと組織的な活動をしたい」という意見が増え、NPO（民間非営利団体）化に向けての活動も展開中です。参加者は皆、創業意欲が旺盛で、自分も活性化できています。業種はソバの機械製造から菓子製造、訪問販売、しんぎゅう師、観光産業、IT（情報技術）系までと多彩です。自分の技術士業には全く貢献しない活動が多いわけですが、それでも地元の間でネットワークができ、地域経済の活性化に一役買えればと毎月楽しみながら参加しています。

平野技術士事務所所長 平野富夫氏



切り出した伐採竹を粉砕機でチップ状に細かくして再利用する

竹林伐採で循環型社会を推進

建設部会では、環境問題に対するさまざまな取り組みを実施しています。私は地域に根ざした社会貢献として里山林、竹林の間伐などを促進する「竹林再生プロジェクト」に参加しています。このプロジェクトには、環境保全のためのボランティア活動として日本技術士会のほか、建設コンサルタンツ協会、全国土木施工管理技士会連合会などが協力。各地の荒廃した竹林を手入れするため、伐採を継続的に行っています。竹林は放置しておくとう過密状態となり、土壌の保水力が落ち、生態系のバランスを失ったり、地すべりの原因になったりするからです。

最近の活動例としては、福岡市東区の北東に位置する長谷ダム上流側の竹林を伐採しました。土日の2日間、冬場の寒い朝9時から午後4時まで、15人足らずでしたが、山林から切り出した伐採竹を担ぎ、大小に選別し、破碎機でチップ状に細かくしました。竹は竹炭やチップ状にすることによって、堆肥や土壤改良材として利用できます。また、雑草用施設材など雑草対策に適したものに生まれ変わります。

竹林伐採は地味で目立たないハードな作業です。しかし、山林の働きを健全に保持し、竹林再生につなげるためには欠かせないものです。里山の保全と竹の有効活用を通して地域の資源循環のために、これからも山の手入れを推進していきたいと思っています。



身近で活躍する技術士

坂口工業福岡支店長 仲野幸男氏